

第4回 府中市男女共同参画推進協議会 議事録

日時：令和5年10月25日（水）午前10時～正午まで

場所：男女共同参画センター 学研室

出席者 （委員）

内海会長、藤山副会長、芦沢委員、漆原委員、大室委員、内藤委員、
深澤委員、水橋委員、向井委員

（事務局）

阿部女性活躍推進担当副参事、大神田男女共同参画推進係長
（株式会社 都市環境計画研究所）

大竹氏、庄司氏

欠席者 西條委員、松本委員、横森委員

傍聴者 0名

1 報告事項

(1) 第7次府中市男女共同参画計画について

2 審議事項

(1) 府中市男女共同参画計画推進状況評価報告に係る第三者評価について
（前回の協議内容の確認・後半協議）

3 その他

配付資料

- ・資料1 第7次府中市男女共同参画計画策定に係る市民意識調査結果（速報）と差替資料
- ・資料2 府中市男女共同参画計画推進状況評価重点項目各委員評価
- ・参考 令和5年度第3回府中市男女共同参画推進協議会 議事録

【会長】

定刻になりましたので、第4回府中市男女共同参画推進協議会を開会いたします。

まず、事務局から本日の委員の出席状況の報告、傍聴者の有無、配付資料についてお願いいたします。

【事務局】

本日の出席状況でございますが、西條委員、松本委員、横森委員の3名がご欠席となっております。現在、定数12名中9名の委員の皆様に出席をいただいておりますので、本協議会は有効に成立していることをご報告いたします。

なお、本日の傍聴ですが、申込みはございませんでした。

【事務局】

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

本日の資料一式は事前に送付をさせていただいております。また、併せて、第6次の男女共同参画計画の冊子、令和5年3月の答申をご持参いただくよう、ご案内しております。

本日の流れにつきまして、報告事項1点、審議事項1点になります。

事務局からは以上でございます。

【会長】

それでは、次第の「1 報告事項(1)第7次府中市男女共同参画計画について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料1をご覧ください。

第7次府中市男女共同参画計画の策定に向けた基礎情報の収集として実施しました市民意識調査の集計の速報になります。調査期間は、令和5年9月11日(月)～令和5年9月24日(日)までとし、10月6日(金)到着分までを集計に反映しております。

調査票の送付数は2,000票で、有効回答票は683票、有効回答率は34.2%となっております。現在も届いている回答がございますが、有効回答数には含めません。最終的に回答いただいた回答数には含めて現在進行形で集計を行っております。

速報の内容については、策定支援業者の株式会社都市環境計画研究所の方よりご説明いただきます。よろしくお願い致します。

【株式会社 都市環境計画研究所】

資料1と合わせて、差替の資料もご確認いただきたいと思います。

先ほど事務局より説明があった通り、回収数は今後少し変わっていきます。

1ページ目の「有効回答票」は683票から687票に修正させていただきます。

3ページ目の「回答者の属性」についてですが、女性56.2%、男性42.6%とやや女性が多いもののバランスはとれていると思います。年齢については40代～60代が約63%と過半数を占めています。この数字は全体の結果を示していますが、WEBの結果として40代と50代が最も多く、70代以上も2.9%の方にご回答いただいております。高年齢の方が積極的にWEBで回答してくださっていることを、今回改めて認識できたところでございます。

4ページ目の「婚姻」の「3 主婦・主夫」のところは、差し替えの「3 離別・死別」が正しい表記になります。

5ページからの「あらゆる分野における男女共同参画計画について」はこの調査の柱になる設問となります。問1の「あらゆる分野において男女の地位は平等になっていると思うか」のグラフでは「学校教育の場」のみ44.7%の方が平等と回答していますが、それ以外はほとんどの項目で「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇」の割合が高い結果になってい

ます。特に「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」で平等と答えた方がそれぞれ6.0%、10.1%で、不平等と感じている方が多い結果となっています。

8ページと9ページにつきましては差し替えをご覧ください。問2の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方について」ですが「賛成」「どちらかといえば賛成」が合わせて22.7%、一方で「反対」「どちらかといえば反対」が77.9%で、市民の7割以上が反対寄りの意見をお持ちだという結果になっています。問2-1で見る「賛成の理由」として、「5.育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」「4.妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」が5割以上で、家庭環境や状況を重視して「賛成」と答えたということがわかります。一方、問2-2で見る「反対の理由」として「6.固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」「1.男女平等に反すると思うから」の割合が高くなっています。社会概念的な理由から「反対である」と考えている方が多くいるという結果になりました。

11ページの問4「児童生徒の男女共同参画意識を育成するために、学校教育で必要な取組」ですが、「1.性別にかかわらず、協力して物事を進める必要性を学ぶ」と「2.ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」が6割以上で、道徳的な部分を重要視している結果になっています。

また、教職員対象の項目の「9.教職員を対象とした男女共同参画の研修を実施する」「10.教員の男女比を同数にしたり、管理職に女性を増やしていく」については、選んでいる方はいるもののさほど重要視はされていない結果になっています。

12ページも差し替えをご覧ください。問5「現在の社会活動や地域活動への参加について」は参加率が2割程度で「できていない」「参加するつもりはない」と考えている方が7割以上という結果になっています。問5-1「その理由」の「2.参加したいができていない」を選択した方のみに聞く設問であるのに、差替前の資料では全体に対しての値になってしまいました。修正前の%は分母が異なるため、グラフと%の部分を差替えております。「できない理由」としては「忙しいから」「参加方法がわからない」「きっかけがない」という方が多数という結果になりました。

13ページの問6「災害対策に男女双方の視点を生かすために重要なこと」では、「4.性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする」「3.災害に関する各種対応マニュアルなどに男女双方の視点を入れる」制度的なものや運営的なものに重点が置く意見が多かったようです。

14ページの問7は「見聞きしたことのある言葉」として男女共同参画に関する用語の設問になっています。全体的に割合は高くなっていて「11.パワー・ハラスメント」「10.セクシュアル・ハラスメント」は9割以上が認知、「7.LGBT」「16.ジェンダー」の新しい単語についても8割以上が認知、一方で「18.リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」「13.クォータ制」については認知度が1割以下と低い結果になりました。「1.男女共同参画社会」「17.ワーク・ライフ・バランス」については6割程度という結果にとどまり、認知度はそれなりにあるものの、もう少し啓発をしていくことが必要だと思えます。

15ページの「仕事と生活の調和について」で、問8「仕事、家庭生活、個人の時間の優先順位の希望」については、「6.家庭生活と個人の時間を優先したい」が一番多い結果となっています。一方で問9「仕事、家庭生活、個人の時間の優先度の現状」では「1.仕事を優先している」が最も多く、希望と現実の乖離があるようにも感じます。しかしながら「希望の6」と「現状の6」は

同じ選択肢で、「希望」が31.5%、「現状」が17.6%ということになります。すべて同じ人が答えたと訳ではないと思いますが、希望通りに現実がなっていてバランスが取れている方も少なくないのではないかと思います。

17 ページの問 11「ワーク・ライフ・バランス実現のために有効だと思う取組」について「1.長時間労働の削減」「8.テレワーク、副業・兼業の促進など多様な働き方の導入」「10.フレックスタイム、短時間勤務制度、週休3日制の導入など柔軟な働き方の導入」など新しい働き方や柔軟な働き方のほか、「3.仕事と育児の両立支援」「4.仕事と介護の両立支援」の割合が高い傾向にあります。「2.有給の取得促進」も含め、まんべんなく有効だと思う取組が必要だと感じています。

それを踏まえて18ページの問12「ワーク・ライフ・バランス実現のために府中市に望むこと」では「3.高齢者・障害者等を家庭で介護する人の負担を軽減するための情報提供等を行う」「5.男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境を働きかける」が高い割合になっています。選択肢の1と2は子育て環境に対しての選択肢になりますが、4割以上と高い状況でした。問11の設問で「有効だと思う取組」に答えた方が「市に望んでいる」という結果にもなっていることになります。

19 ページからは「人権が尊重される社会の形成について」になります。

22 ページの問14「自身が暴力を受けたこと、または身近な人が暴力を受けていることに気づいたことはあるか」では「3.まったくない」が7割以上ですが「2.1～2度あった」「1.何度もあった」と答えた方は合わせて20%以上という状況でした。問14-1では「1.」の実際に相談した方が19.1%であるのに対して「2.3.4」のいずれかで、どこにも相談しなかった方は80%以上でした。この結果は今後の課題になるのではないかと思います。特に「3.相談したかったが、相談先を知らなかった」の15.6%という結果に対しては、情報の周知が必要であろうと感じました。

23 ページの問15「DVやデートDVの対策や防止のため、府中市にて必要な施策」については「1.相談しやすい環境・相談方法を整備する」が最も多くなりました。「3.被害者の安全を守る体制を確立する」「5.被害者を一時的に保護する施設と連携する」「6.被害者に対する自立支援を行う」も高い割合になっています。こちらは全体に向けての質問なので、必ずしも暴力を受けた人たちだけの回答ではありませんが、問14-1から見えるような「相談の場所」が必要だということにつながってくるのではないのでしょうか。

24 ページからは「さまざまな行為を日常生活で受けたことがあるか」という設問になります。「まったくない」の回答が多いのですが「容姿や体形などについて話題にされた」「男のくせに、女のくせに等の性差を理由とした不快な言葉を言われた」に回答した方がやや多くなっています。問17の「セクシャルマイノリティの人権を守るために必要な方策」については「1.正しい知識の習得と、理解を深めるための教育を学校で習う」が圧倒的に多く「5.セクシュアルマイノリティであっても不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する」が次に多かった結果です。まずは子供の頃からの教育「学校教育」が必要であろうということになります。一方で、「7.特に必要なことはない」が3.8%だったことは課題だと思いました。

26 ページからのタイトルに誤りがありました。「人権が尊重される社会の形成について」ではなく正しくは「男女共同参画社会づくりに向けた府中市の政策について」聞く設問となっておりますので、訂正をさせていただきます。

問 18「府中市男女共同参画センター『フチャール』を知っているか」に対する回答では、利用したことがある方は 6.3%で、知らなかった方が 64.9%と一番多かったのは、今後の課題であろうと思います。

問 19「府中市男女共同参画センター『フチャール』にどのような機能があれば良いか」では「1.男女共同参画に関する意識啓発講座や情報提供」「4.男女共同参画センターの事業紹介等に関する情報提供」「3.女性の就労支援、デジタルスキルアップ等に関する情報提供」の割合が多くなっているのを見ると、「情報提供」へのニーズが高いということがわかります。

27 ページの問 20「府中市は女性が活躍できる都市だと思うか」では「5.わからない」が一番多く 58%ですが、一方「1.そう思う」「2.どちらかといえばそう思う」と答えた方が合わせて 3 割近くいることとなります。理由につきましては現在作業中で、傾向別にまとめたら改めて報告したいと思います。

28 ページの問 21「自分らしく豊かに生きることのできる社会を実現させるため、力を入れてほしいこと」については「7.男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」が 6 割近くと最も多く、次いで「10.育児や介護をする人の負担軽減を行う」「1.男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」が多くなっています。働き方や負担軽減など、ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みに力を入れてほしいと考えている割合が多いということになります。

これらをまとめると、全体の傾向として「夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである」といった固定的な性別や役割分担意識は解消しつつあるのに、男女の地位をそれぞれの立場で見た場合、「男性優遇」と考えている市民が多かったという結果になりました。

用語の認知度については「見聞きしたことがある」方の割合が多いことがわかりました。

「働き方」や「仕事と育児の両立支援」を必要としている市民が多く、ワーク・ライフ・バランスの取り組みに力を入れるべきであろうという回答が多くみられました。

DVについては、まずは相談先等の情報提供が求められており、相談しやすい環境づくりが求められていることがわかりました。

性的マイノリティについては、まず子供の頃からの教育が大切だと考えている市民が多かったです。

施設の利用については「フチャール」の認知度が低く難しい部分ではありますが、まずは情報提供を求められていることが、今回の調査で分かったことでございます。

今回は「速報値」なので、あらためて今後、性別や年代別でグラフにまとめたり、前回の調査と照らし合わせて比較したり、国や東京都と同じ設問の部分については比較して傾向を探りながら、まとめていきたいと思っております。

【会長】

府中市の男女共同参画の実態が見えてくる重要な資料ですので、引き続きよろしく申し上げます。今の報告に関して、質問やご意見はありますか。

【委員】

回収数の 687 票は、概ね想定していた数なのでしょうか。

【株式会社 都市環境計画研究所】

はい。概ね 620～630 程度回収できればと想定しておりました。前回の回収数（772 票）よりは少し減ってしまったところではあるのですが、傾向として昨今どの市町村でも回収数が減っており、今回も減るだろうという予測はしておりました。ただ、統計上で標本誤差というのがあるのですが、今回の票数は十分有効で結果として問題はないというところとなります。

【委員】

府中市に越してきた時から「府中は保守的だ」と言われていたので、実際どうなのかが、こういった調査でわかるのだなと思いました。今後、他地域と比較するということなので、どういう結果が出るのか期待しています。

【委員】

今回の結果を前回結果と比較しながら見ていたので、今後そういった比較をしてくださるということで嬉しいのですが、前回の男女比や年齢比がどうだったかというのは、冊子には載っていなかった気がしました。例えば、用語の認知度が上がったという話があったのですが、今回は 20 代が増えたから認知度が高い、みたいなのところもあると思うので、こういうところも比較してもらえると良いかと思います。あと、こういった冊子を作る時には、そういった数値や特徴を入れておいていただけると良いかと思いました。

【株式会社 都市環境計画研究所】

補足としてよろしいでしょうか。性別については、前回は女性が 61.3%で、男性が 37.7%ということで、女性が圧倒的に多かった状況です。今回は男性の回答が増えてバランスが取れ、前回よりは均等に意見が聞けたかなと思います。年齢比についても、もう一度確認いたしますが、概ね今回と同じような傾向でした。40代～60代で約6割、若い世代はやはり少なかったかと思います。

【委員】

そういうことであれば、全体的に言葉の認知度が上がってきているということですね。

【株式会社 都市環境計画研究所】

そうですね。この辺りの比較を行いまして、またご報告させていただければと思います。

【会長】

それでは次回、お願い申し上げます。

（株式会社 都市環境計画研究所 退出）

【会長】

では次の議題に進みます。次第の「2.審議事項(1)府中市男女共同参画計画推進状況評価報告に係る第三者評価について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料2をご覧ください。

2項目までは前回の協議会にて評価内容をご確認いただき、ご意見を頂いた個所については修正し、赤字にしております。こちらについても追加でご意見がございましたら、お願い致します。

3項目以降につきましては、今回がはじめての確認になりますので、ご意見いただきますようお願い致します。

以上でございます。

【会長】

では3分程度お時間を設けますので、ご確認をお願いいたします。

(3分間 資料確認)

【会長】

ではまず、1ページの事業番号1「全ての審議会等における男女それぞれの構成比率を40%以上に促進」から確認していきます。赤字の部分が訂正箇所ですが、ご意見やご質問はございますか。新たに質問したいことなどでも構いません。

【会長】

40%以上という比率目標を掲げているのは「当然」と思っていたのですが、他の所であまりにも数値目標を掲げていないので、ここでは「当事業においては数値目標を掲げているため」という判定理由の文言になったようです。

【委員】

細かいところなのですが、2行目が「取組をを」になっているので直しておいてください。

【委員】

女性人財バンクもいいのですが、公募市民は2人だけとか、規則で決まっていくということがあから、結果が横ばい出ないのではないのでしょうか。女性比率が低いところには規則の変更も視野に入れた、何か抜本的なことをやらないと女性比率を40%以上にするのは無理なのではないかと思えます。

【会長】

女性人財バンクやアドバイザーを入れたのが抜本的な改革のつもりで、そんなにすぐには結果が

出ないと思っているのではないのでしょうか。

【委員】

「府中市は40%は無理です。33%です」というのであれば、これでいいのですが、規則の変更も視野に入れた抜本的な改革をしないと目標達成は無理だと思います。

【会長】

「数値目標を掲げ取り組んでいる」ことを評価するよりは、数値目標を掲げているのならば、もっと積極的な改革をしてもらおうよう強く訴えかけるべきだと思います。

【委員】

どうしてもこの文言を入れたいのであれば「40%と高い目標を掲げていただいているので」というようにつけてもいいとは思いますが。

【副会長】

「規則の変更を視野に入れ、今後も計画的かつ継続的に」と具体的にひと言入れた方がいいと思います。「こちらからはこういう意見出しますよ」という姿勢でないと、毎年同じことの繰り返しになってしまいます。

【委員】

難しいのはわかりますが。

【会長】

では今の意見を反映し、少し強い書き方で評価内容の再作成をお願いします。

次の事業項目に移りたいと思います。前回ヒアリングをして実態が分かってきたところではありますが、府中市の事業所に対して及び腰というか、遠慮をしていますよね。男女共同参画が後回しになっていることが分かりました。今回修正いただいた評価内容に「中小企業の企業価値向上には男女共同参画の意識が有効であることを認識いただき」とありますが、「有効」ではなく「必須」「必要」等の言い方に変えた方がよいと思いましたが、皆さんはいかがでしょう。

【副会長】

産業振興課の様子だと「有効」の表現では動かないと思うので、こちらからの提案として「必須」「必要」と言い方を変えることに賛成です。

【委員】

先ほどの市民意識調査の結果で18ページの「ワーク・ライフ・バランス実現のために府中市に望むこと」の中で「男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかける」ということを市民は求めている「そのことをどうしたら実現できるか」を考え

るのがまさに産業振興課がやるべきことなのではないかと思いました。

【会長】

そうですね。この市民意識調査の結果が示していると思います。

【副会長】

例えば一番最後の「男女共同参画の意識啓発につながる取組の実施をお願いします」の部分を「環境整備を働きかけるような取組の実施をお願いします」に変えてはどうでしょうか。

【委員】

先ほどの市民意識調査の結果もそうですが、5年前の市民意識調査の際もワーク・ライフ・バランスを求める声はかなりあり、今回更にその要望が強調されているだけであって今始まったことではないですよ。市民の要望をもっと強く訴えるべきだと思います。

【会長】

ではここは市民意識調査の結果を踏まえて、評価内容の再作成をお願いします。

次に3ページ目の「市の女性職員の参画意識の向上」について審議したいと思います。昇任審査や管理職登用の促進がテーマで、今回初めて「B」の評価です。昇任試験から昇任選考に制度を見直して効果が出ているということですが、皆さんいかがでしょうか。コメントの中には、別の観点から「女性の活躍＝管理職や重責を担うこと」という価値観から脱却することを提言されている方もいらっしゃいます。もちろん男女ともに管理職だけが人生ではありませんが、あまりにも管理職の男女差が大きいので、女性の中でもリーダーになって活躍したい方はたくさんいるはずですし、その男女差を埋めたいと思っているのが、女性管理職登用の目的だとおります。

【委員】

人数がとても増えているのは良いと思いますが、女性管理職の割合が、令和4年度も令和5年度も計画及び目標が「管理的立場にいる委員や職員を22%にする」という目標を設定しているにも関わらず、その結果が書いていないことが気になります。達成率によっては目標自体が低いということもあります。具体的な数字を書いてほしいと思いました。

【会長】

たしか、全国比率は18%程度だったと思います。現在、府中市の女性管理職比率はどのくらいですか。

【事務局】

ちょっと調べてみないとわかりません。

【副会長】

他と比べると22%がたとえ高い設定であったとしても、一般企業などは30%から40%と目標を高めている段階です。今すぐとは言わなくても、その位の目標を掲げられるといいですね。

【会長】

202030とは、「女性管理職を30%に」というのが日本の国の施策ですよ。

しかし、2020年に30%には届きませんでした。今は目標を変えて2020年代のなるべく早い時期に30%を目指すこととなっています。

【委員】

府中市の職員の採用は男性の方が多いのですか。

【事務局】

採用の段階では男女比はだいたい同じです。ただ保育職も含めると女性の方が多いと思います。

【委員】

30数年前の事務職員の採用は、3分の1も女性がいない時代でした。その方たちが今、課長や部長を担う代になってきたということは、人材的に女性が足りないのかなと思いました。最近は採用に男女差がないのであれば、あと数年したら管理職になりたいと思う女性も多くなるのではないのでしょうか。

【会長】

全体の女性職員の割合はどのくらいですか。

【事務局】

女性管理職の割合は、令和4年の4月は8.6%だったのが令和5年の4月は13.7%になりました。また、全体の女性職員の比率は53.1%です。

【会長】

女性職員の割合はほぼ半数なのですね。22%に目標を掲げた理由はなぜですか。

【事務局】

担当課に確認しないとわかりません。

【委員】

「令和4年度は8.6%だったのが令和5年度は13.7%までもってきたから、令和6年度に18%までもっていければ令和7年度には22%を達成できるかもしれない」というような数字を明記してくれば、もっと評価がしやすかったと思います。

【副会長】

提言の欄に書くよりも「次回からは必ず目標にあった実績を数字で入れてください」と要望としてお願いする方がいいですか。

【会長】

目標も立てやすくなるので、提言の欄に書いてしまっていていいと思います。

(異議なし)

【委員】

前回の第6次の資料を見ると平成31年の4月は管理職127人中女性が14人で11.0%になっています。

【事務局】

当時は試験制度だったので、一度女性が辞めた後は女性が試験を受けておらず、女性の管理職が少なくなったということだと思います。

【会長】

制度を変えて女性が増えたことに対して、男性からのクレームなど何か意見はありましたか。同じポストの数ならば、男性がなっていたところを女性がつくことで、自分のポジションが奪われたというような不満の声はありましたか。

【事務局】

議会では、課長補佐に上ってすぐの人が答弁する機会が非常に多く、その中で女性はきっちりと上手に説明する方が多いと、市長や副市長からは評価をいただいております。そのことを男性がどう思っているのかはこちらには聞こえてきていません。

制度が変わり、試験を受けないで推薦で管理職になっていますが「推薦されたタイミング」と「そろそろ自分になってもいいのかなと思ったタイミング」が重なった方たちなので、やりがいをもって業務に当たられています。

【会長】

他に質問やご意見がなければ、4ページの男女共同参画センター「フチャール」の運営についての審議に移りたいと思います。「フチャール」の認知度を増やすにはどうすればいいのか、また「利用者数は徐々に回復しているが男性利用者が少ない」ということですが、評価についてもご意見をお願いします。

【副会長】

この評価かなという感じです。認知度 34.4%ということは、前回の調査より 10 ポイント近く落ちていることとなります。私が以前勤めていた世田谷センターは認知度が 10%程度だったので、それよりはましですが、もっと認知度は上げたいですね。

【会長】

府中市民の男女共同参画意識を上げていくためにはまず「フチャール」の知名度・認知度を上げていくことが大事なのではないかと思います。5年前の調査よりも 10%下がっているということは真摯に受け止めなければならないと思います。

【委員】

「女性センター・スクエア 21」から「男女共同参画センター・フチャール」に名前を変えたことが、認知度が下がった原因なのではないでしょうか。前は知らなかったという人が 47.7%でしたが、今回は 60%台になっています。

【委員】

「フチャール」という愛称にしたのはどういう経緯だったのですか。公募ですか。

【事務局】

はい。

【会長】

経緯はどうであれ「フチャール」と命名したからにはこの「フチャール」の認知度を上げていかなければならないと思います。

【副会長】

「認知度向上のために」とひと言加えた方がいいと思います。おそらく「フチャール」が何をしているところなのか、わからない市民が多いのではないのでしょうか。

【会長】

「フチャール」単体で使うことはなく「男女共同参画センター『フチャール』」で使っているのでしょうか。

【事務局】

広報物には基本「男女共同参画センター『フチャール』」ですが、載せる媒体のスペースが狭い場合はフチャールのロゴだけを載せることもあります。

【会長】

「フチャール」の認知度を上げるために引き続き、努力していきましょう。

続きまして、5 ページ目「性的マイノリティへの理解促進と支援」ですが、評価が「D」で後退しているという結果になっています。他の自治体に比べても非常に優先度が低いとコメントしている方もいますが、取組に対して一歩引いている感じがします。皆様のご意見を伺いたいと思います。

【副会長】

評価の内容で「研修等の実施にとらわれず」とありますが、研修の実施はマストである前提で「研修等の実施にとどまらず」が妥当だと思います。

【委員】

先ほどの意識調査でも学校教育に期待している方が一番多かったですが今、学校では「性的マイノリティ」についてどのようなプログラムを実施しているのでしょうか。

【副会長】

当事者のグループや支援団体の方に学校へ来ていただき、直接話を聞くことが多いです。

【会長】

小中学校ではもちろんやらなくてはいけないことですが、「大人」で知らない人に対して理解を深める研修をきちんとやれていないと感じます。ここでの評価はこの「大人」への対応や研修ができていないということだと思います。

【委員】

学校教育を担当しているのが指導室で、こちらから何度か提案していて第三者評価にも挙げていますが、実際は自己満足だけできちんと数値化もされておらず、具体性がなくわかりづらいです。多様性社会推進課がしっかり協力して、きちんと学校教育でやっているかをみながらアドバイスをしていかないと、指導室は気が付かないのだろうと思います。

【委員】

多様性社会推進課のメインの仕事は何ですか。

【事務局】

多様性社会推進課はメインが「男女共同参画」です。もう一つが多文化共生で、こちらは非常に広く「外国人の支援」「国際交流」「姉妹都市との交流」「人権啓発」「LGBT」「平和事業」等です。

【副会長】

だいたいそうですね。平和と人権と国際交流はセットにされがちですよ。

【委員】

周知の方法として、府中市の桜まつりや協働まつりにブースを出すのは難しいですか。

【事務局】

多様性社会推進課で毎年ブースを出しているのですが、姉妹都市のヘルナルスや佐久穂町の「交流の部分」がメインになっていて、あとの部分があまり宣伝できていない状況です。

今年の桜まつりでは、貧困対策として生理用ナプキンの配布や「フチュール」の宣伝も予定していましたが、残念ながら雨で中止になってしまいました。今後も「男女共同参画」を前面に出す出店を考えていきたいと思っています。

【委員】

登録団体で「LGBT」や「性的マイノリティ」に関する周知や理解をメインに活動している団体はあるのですか。

【事務局】

現在はありません。

先日、パートナーシップの制定をされている団体の方と話す機会がありました。来月は「当事者が何を望んでいるのか」「集まる場所が必要か」等の話を聞く座談会を予定しています。その中で「フチュール」をどう活用していくかのニーズを拾っていききたいと思っています。市のHPだけではなく、どういうところで情報を得られているのか等、当事者のネットワークを知ることができるのではないかと考えています。

【委員】

多様性社会推進課では「男女共同参画」も一生懸命やっているし「文化面」でも外国人の支援や交流も積極的に行っていますが、「性的マイノリティ」については後手後手になっているということになりますね。

【事務局】

多様性社会推進課で行っている活動を、市民に認識をされていないことを変えていかなければいけないと思います。

【会長】

担当課のやる気があまり感じられないので「もっと自覚をもって」「積極的な取組を求める」等、府中市では「性的マイノリティ」の取組が遅れていることを認識するために、この評価の内容は積極的な取組を促すようなコメントに変えた方がいいのではないのでしょうか。

【会長】

以上で第1段階の評価が終わりました。事務局は今の意見等を反映し、評価の最終案の作成をお

願います。

続きまして次第の「3 その他」について事務局より願います。

【事務局】

事務局からは3点ございます。

1点目は、前回の会議の議事録について、本日、参考として配付しております。内容につきましては委員の皆さんに事前にご確認いただき、公開手続きをさせていただきましたのでご承知おきください。

2点目は、第7次計画策定に向けて、市民意識調査と併せて市内事業所への意識調査を実施しているところですが、回答状況が芳しくないため10月末まで調査期間を延長し、関係各所にも声掛けをしながら対応しています。集計でき次第、協議会へご報告し、骨子案へも結果を反映させていただきたいと考えております。

3点目ですが、次回の協議会の内容についてご案内です。第6回は12月下旬を予定しておりますので、日程調整をお願いいたします。

（日程調整）

第5回を 11月30日（木）午前10時～12時

第6回を 12月21日（木）午前10時～12時といたします。

正式な開催のご案内は、別途文書にてお知らせいたします。

以上でございます。

【委員】

先ほど聞きそびれてしまったのですが、市民意識調査のことで質問があります。

私の友人の所に調査票が届いておりまして、期日間際まで回答しないでいたら、督促の葉書が届いたそうです。有効回答の数を確保できたので構わないのですが、最初から葉書を送ることになっていたのでしょうか。

【事務局】

はい。そうです。

【事務局】

「ご回答くださっていただければ、ありがとうございます。未回答でしたら、ご回答をお願いします。」というような、お礼と督促を兼ねた葉書をお送りしました。

【委員】

わかりました。ありがとうございました。

【委員】

市民意識調査の速報の結果は今回受け取りましたが、調査票の最終版も拝見できますか。

【事務局】

かしこまりました。取り急ぎデータでお送りして、次回の協議会で用紙をお配りします。

【会長】

それでは本日の会議は閉会とします。ご出席ありがとうございました。